

4・5年生に入部希望を聞き、クラブが構成されていった。

第一回のクラブ活動では、6年生が考えた活動計画について、4・5・6年生で話し合った。6年生から下学年へのトップダウンにならないよう、下学年の意見にも耳を傾けながら再考し、計画を練った。その後十数回の活動で、6年生は、「自分たちが創ったクラブだから」と責任を持って活動したり下学年をまとめようと能動的に動いたりする姿が見られた。4・5年生では、自分たちで考えた活動計画であるということが自主的な行動の一助となり、自分の役割を果たそうと進んで活動に参加する姿も見られた。

一方、計画を立てるため、時間の確保が必要になることが課題である。学年初めということもあり、6年生への負担が大きいことも気にしなければならない。

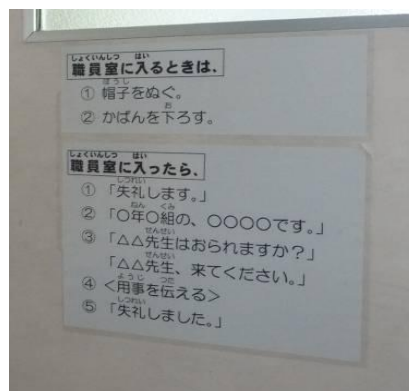
## 2、規範意識を高める取り組み

### (1) 丁寧語の使用

#### ・ 職員室や保健室への出入り

今年度の新たな取り組みとして、丁寧語の指導が挙げられる。児童の規範意識を高めるために、日頃から丁寧語で話すように、職員で共通理解を図り、全校で指導に臨んだ。その第一歩として、職員室と保健室に入る際に、「〇〇です。」「△△します。」という言い方で、自分の学級、名前、用件をはっきりと言えるように取り組んだ。

低学年の児童や、上手に用件が伝えられない児童のために、職員室、保健室の各ドアにマニュアルを貼り、しっかりと丁寧語を使用できない場合は、その場で言いなおしをさせて、正しい言葉遣いを児童が身につけられるように繰り返し指導してきた。1年を通して指導を続けることで、職員室や保健室ではしっかりと丁寧語で用件を伝えようとする姿勢が目に見えて感じられるようになった。また、各教室においても授業中に丁寧語を違和感なく遣える児童が以前に比べて増えてきた。



#### ・ 健康観察

自分の状況をしっかりと把握し伝えることは、生きていくことでとても大切なことである。朝の健康観察において、自分の名前を言われたらしっかりと返事をして、その日の健康状態をはっきりとした声で伝える。この取り組みは、児童が学習規律を身につける上で重要なものである。その日のスタートをしっかりとすることで学習も主体的に取り組むこ

とができるようになると考えられる。課題となってくるのが、具合が悪いときに、いつから、どのように（その日の過ごし方でどのように気をつけるか等）を、言わずに簡単に伝えることが多かったことである。学級で、健康観察の仕方を、ある程度そろえていく必要もある。

## (2) 1. 3. 7. 30の法則

目的…学級経営の基礎をつくる。

1日目…担任が大切にすることを具体的に黒板に提示する。

- ・名前を呼ばれたら「はい」と返事をする。
- ・けじめ（時間・話を聞く）
- ・困ったことは先生に相談する

宿題は先生が大事にしたいことを覚えてくること。

3日目

毎日確認する

担任の話を聞くときは「手は膝の上」に置く。45分の中で何回も繰り返し、全員が膝に手を置くまで待つ。3日目までは、個人的な配布物がたくさんあるので必ず呼名し「はい」という返事の練習をする。その時必ずほめる。3日目までに「はい」の徹底。必ず毎日できたかどうかを評価する。

4日目～7日目

「はい」の徹底指導を平行しつつ、学習の始めと終わりの時間を守るように指導。わかりやすいように黒板に〇分～と書く。教師は、その時間に必ず始め終わる。

30日

教師が話をし始めたら、手は膝の上に置き、話している人の方を見ることを45分の中で何度も繰り返し行うことを毎日続ける。

法則に取り組むにあたって、学期の始めの1ヶ月は学級作りの基本であると思う。教師が提示したことに対して子どもたちが、がんばろうとする姿が見られたら必ずほめ、信頼関係の基礎をつくり、あるべき正しい姿へとめざそうとする子どもたちの気持ちを支えていくことが大切である。

## (3) 廊下歩行

児童の規範意識を高めるための具体的取組みとして、今年度も廊下歩行に重点を置いて取り組んだ。昨年度は、1学期から2学期にかけて「歩こうカレンダー」を配布し、一日の振り返りをさせることで、廊下歩行の意識化に成功し、3学期

